

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 064	提案機関名 農業技術センター 足柄地区事務所
要望問題名 トキワマンサクのこぶ症状の発生回避対策について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 管内の植木生産はカンキツの転作として栽培が始まっており、県内有数の産地となっている。 しかし、数年前から当所に、トキワマンサクの樹皮が裂け、こぶ様症状となる現象が発生し、その原因解明の問い合わせを受けている。現在、病虫害防除部と連携を取りながら対応しているが、原因解明まで至っていない。 また、管内の植木生産者に樹皮が裂ける症状について聞き取りを行ったところ、多くの生産者でその発生を認めており、発生には系統間差があること、年により発生の頻度が異なることも知られている。株は生育不良になるが、枯死に至らない。 ここで改めて、こぶ症状の発生要因の解明と回避策（病虫害対策・栽培技術対策）について検討を行って欲しい。 また、管内の生産地は傾斜地が多く、堆肥などの資材投入や土壌消毒剤施用の作業が平坦地より作業負荷が大きい。そのことについても考慮した技術として検討いただきたい。	
解決希望年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部果樹花き研究課 生産環境部病虫害研究課
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 病虫害の診断同定および発生生態の解明に基づく予察・防除技術の確立			
対応の内容等 トキワマンサクは成長が早く、やや根が荒いため、地下埋設型コンテナを利用する栽培が主流です。コンテナへの移植から露地圃場定植までの期間が短く、コンテナ内における地下部の生育が不十分ですと苗が徒長気味になり、耐寒性や耐乾性が劣ることが経験的に知られています。 まずは、本症状の発生頻度の高い農家、生産圃場について苗の育成状況を調査するとともに、現地圃場において育苗期間を十分にとった苗の定植を試みてください（果樹花き研究課 対応区⑤、⑥）。 本症状の原因が病害であれば新病害になります。したがって、防除法につきましては、まず病害であるかどうか確認したうえで検討しますので、病虫害診断依頼により対応いたします（病虫害研究課 対応区分①）。			
解決予定年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内		
備考			